

第 110 回 小樽商科大学－北海道大学 対面式大打ち上げ会 報告書

令和 6 年 7 月 8 日

小樽商大応援団後援会

文責 小西 一郎

令和 6 年 7 月 6 日(土)12 時 27 分より札幌市大通公園西 11 丁目南広場で第 110 回 小樽商科大学－北海道大学 総合定期戦・対面式が開催されました。開催を祝し、16 時半から三川屋会館 札幌 7 階で北海道延齢会と小樽商科大学応援団後援会との共催による大打ち上げ会を開催しました。司会進行は幹事校である北大に倣い、北海道延齢会事務局次長の佐野将義君(H2 入学・82 代)。今年も道内はもとより、島根県、広島県、東京都、千葉県、神奈川県、仙台、青森など全国各地から、18 歳から 80 歳代まで、商大が OB と関係者 56 名、商大生 17 名の計 73 名、北大が 25 名の計 98 名が集まりました。

最初の開会のご挨拶は北海道延齢会の千川浩治会長(S40 入学・57 代)。同郷の和歌山出身の高僧で高山寺を開山した明恵上人の言葉「あるべきようわ」を引用し、その場において「どのようにあるべきか」を自身に問いかけ、その答えに沿って生きるという教えに言及、対面式は個人と組織の在り方の実習の機会であると述べられました。続いて小樽商科大学応援団後援会の八尾稔啓会長が登壇、今後も両校で大いに北海道を盛り上げていきたいとの挨拶がありました。



【司会進行 佐野将義君】



【北大 千川浩治会長 開会挨拶】

乾杯のご挨拶とご発声は北海道延齢会の諏訪正明顧問(S37 入学・52 代)。昭和 37 年、1 年生の時の札幌駅前での対面式も今日と同様の雨天、入団当初は驚愕の連続だったが、応援団での日々はこれこそ青春だという思いだった、対面式と両校の交流をこれからも続けていって欲しいとのお話がありました。



【商大 八尾稔啓会長 開会挨拶】



【北大 諏訪正明顧問 乾杯挨拶・ご発声】

立ち寄りの方も含めると出席者は 100 名超、会場の熱気は^{いや}弥が上にも高まりました。

暫しご歓談の後スピーチ開始。トップバッターは、応援団研究の第一人者、鳥取大学の瀬戸邦弘先生

です。応援団は近代日本の文化、団が体現するバンカラは我が国の近世と近代のハイブリッドと論結、両校は其れ等が残って居る場所、次世代にバトンを繋げて欲しい、併せて対面式の全国への周知を願うと述べられました。

続いては北大の大谷文昭先輩(S43 入学・60代)。昭和44年小樽東映前での対面式の記憶は未だ鮮明とのお話がありました。



【瀬戸邦弘先生のスピーチ】



【北大 大谷文昭先輩のスピーチ】

次に、商大の渡邊捷弘先輩(S38 入学・50代)からスピーチを頂戴しました。対面式の思い出は、札幌駅前での両校のストーム。警官が制止したのは学生ではなく市電やバスの方、運転手も乗客も誰も文句を唱えず、寧ろ親しみと温情を込めて嵐が過ぎ去るのを待っていてくれた。そしてもう一つの思い出は、式典後、羊肉鍋としてご馳走になったのが犬肉であったこと。北大に **Be ambitious!**の精神在り、商大に **Be gentlemen!**の精神在り、とのお話がありました。

続いて北大の濱田康先輩(S50 入学・67代)がご登壇されました。自分の時から50年経っても対面式が伝わって居ることに感動、受け継いでくれた学生達に感謝、対面式を北海道遺産にすべしと述べられました。レポート提出失念の為、卒業不可ということで大学に呼び戻されたが、改めて提出することで学長が6月卒業を認めてくれた、昔はそういう良き大らかさがあったが、現在は無い。今のおかしな政治を正すべく、北大と商大で国会議員を占有すべしとの提案が為されました。



【商大 渡邊捷弘先輩のスピーチ】



【北大 濱田康先輩のスピーチ】

商大の浜野哲也君(H20 入学・96代)が登壇、中弛みした空気を締めるべく、力強い自己紹介エールを敢行。自分達は商大応援団を復活させた代であり、両校OB、地域、大学、学生の支えがあって可能となった、其の13年振りの対面式の会場は北大獣医学部前で、何時の日か大通公園で開催したいと思っ居た、現在、其れが現実のものになったことは感慨深い、此れからも応援される応援団であって欲しいとのお話がありました。



【商大 浜野哲也君のスピーチ】

続いては両校応援団によるスピーチ。雄々しく凛々しく、笑った時の表情はどこか幼顔であどけなく。青春を謳歌して居る彼等の姿はやはり眩しいものでした。



【北大 定期戦団長 笹岡瑛人君】



【北大 定期戦参謀 早坂知夏】



【商大 団長 横本新君】



【商大 副団長兼団旗長 板谷瑞生君】



【商大 参謀 大西勇樹君】



【商大 鼓手長 泉澤慎之介君】

再び暫しご歓談の後、小樽商科大学応援団後援会の浅野百樹副会長(S43 入学・55 代)が閉会前のご挨拶をされました。今も昔も、世は変化の時であり大事な多いが、商大と北大は変わらず和気藹々、共に歌を唄い、互いに尊敬し合ってきた、此の関係はギネスブックものである、今後も両校でスポーツ、学問、実業の世界で強くなっていくとのアピールがありました。

閉会の挨拶は北海道延齢会顧問の藤田正一先輩(S38 入学・53、54 代)。留学を勧められ、オレゴン大学でのベトナム反戦運動での発言に米国人学生が其の勇気を讃えてくれた思い出に言及。我々は、クラーク先生の教えである **lofty ambition** と、民主主義の基本と建国の精神である自由と平等の精神に立ち返るべきであり、利潤追求の経済すら論語に依拠した道徳で律せられるとした渋沢にも倣い、俗世の富貴を吾が願いとせず、高邁なる精神を培うべしとのお話がありました。



【商大 浅野百樹副会長による閉会前のご挨拶】



【北大 藤田正一顧問による閉会のご挨拶】

最後に、一同で大円陣を組み、小樽商科大学応援団後援会前会長の仮屋雄二先輩(S57 入学・66、67 代)の先導で「若人逍遥の歌」(1・4 番)、北海道延齢会事務局次長の佐野将義君の先導で北大「都ぞ弥生」(1・2 番)を斉唱しました。

